erudio 2

平成 16 年度前期 岩手大学全学共通教育 優秀授業表彰式（2004/12/10）

目　　次

＊ 副センター長挨拶 …… 2
＊ 共通教育の概要 …… 3
＊ 関連委員会・構成員名簿 …… 4
＊ 兼務教員の抱負 …… 6
＊ センター活動日誌 …… 11
＊ 企画・実施部門報告 …… 12
＊ 評価・改善部門報告 …… 16

Iwate University
岩手大学

すると、
雲もなく研きあげられたやうな
群青の空から、
まつ白な雪が、さぎの毛のように、
いちめんに落ちてきました。
それは下の平原の雪や、ビール色の日光、
茶色のひのきでできあがつた、
しづかな奇麗な日曜日を、
一そう美しくしたのです。

国立大学法人 岩手大学　大学教育センター 通信　2005/02

副センター長からのご挨拶：ゼロからの出発

大学教育センター副センター長
全学共通教育企画・実施部門 部門長
山 崎 達 彦
（人文社会科学部 教授）

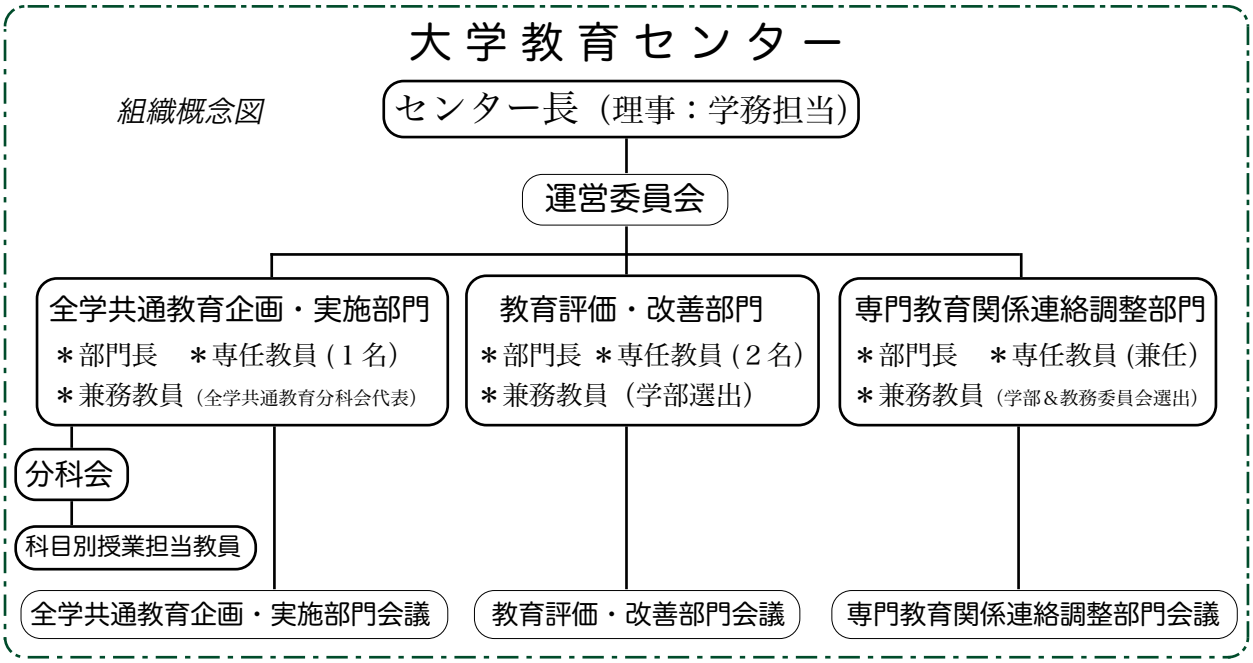
新年のお慶びを申し上げます。

平山健一学長が、昨年４月、国立大学法人岩手大学発足にあたり、全学構成員に向けてご挨拶なさってから、あっという間に９ヶ月目に入ってしまいました。学長は、最初に、中期目標・中期計画において、豊かな人間性と専門的能力を持つ人材の育成という教育重視の方向を全学の合意の下に明示したことを強調されるとともに、今後、検討する評価システムにおいて、教育に対する評価を重く捉えたいという意向を強く表明されました。私たち大学教育センター関係者一同は、身の引き締まる思いで、責務の重大さを再認識した次第です。

ところで、大学教育センターは、重点的な教育支援施設として、法人化を機に情報メディアセンター、地域連携推進センター、国際交流センターおよび保健管理センターとともに教育研究支援施設として誕生することができました。これは、ひとえに全学教職員のご理解の賜物です。

もとより、本教育センターは、既存の施設をシーズとして立ち上げられた他の諸センターとは全く異なって、歴史も伝統もなく、いわばゼロからの出発です。それだけに、本センターは、いっそう全学教職員の深いご理解と幅広いご協力を仰ぎながら、さしあたってまずは足場そのものを踏み固め踏み固めしながら、地道な一歩一歩を進めなければなりません。

その意味においても、大学教育センターのここまでの活動が、全学共通教育企画・実施部門の場合も、教育評価・改善部門の場合も、兼務教員の先生方の大層積極的なご協力をいただいて進められてきていることの意義はきわめて大きく、非常に心強いかぎりです。私たちは、本センターがよちよち歩きながらもこのような幸先のよいスタートを切れたことを感謝申し上げるとともに、さらにセンターならではの実があがるように努めてまいりたいと思っておりますので、引き続き全学教職員のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。



岩手大学全学共通教育の概要

1. 大学教育の基本

大学教育は、「４（６）年一貫教育」という観点から、教養教育と専門教育との相互連携によって営まれることになっています。

本学のカリキュラムも、「教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係わる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。」と規定されている大学設置基準第19条第２項にもとづいて編成されています。

2. 全学共通教育として実施される本学の教養教育

本学の教養教育は、全学共通の関心・責任・協力もとに、全学部の教員による全学担当体制を組織して、「全学共通教育」として実施されています。

3. 本学の教養教育の理念

本学の教養教育は、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことを理念として実施されています。

4. 全学共通教育科目の二元的な構成とそれぞれの共通目標

本学の全学共通教育科目は、「教養科目」と「共通基礎科目」によって二元的に構成されています。

⑴ 教養科目の教育目標

教養科目の教育目標は、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という教養教育の理念にもとづき、特に「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」という、３項目に則して設定されています。

①学生がさまざまな学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を広く生かすことのできるような**幅広い教養**を自ら培うことへの教育的支援

② 学生があらゆる分野の日常生活の営みの基礎になっている各種の常識・通念を掘り下げて問い直すことができるという意味での、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、自然との関係においても人間との関係においても創造的・個性的に生きるうえで必要な**深い教養**を自ら培うことへの教育的支援

③ 学生が多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような**総合的な判断力**を自ら培うことへの教育的支援

⑵ 共通基礎科目の教育目標

共通基礎科目の教育目標は、学生が在学中に教養科目と専門教育科目の学業を進めるうえで、また卒業後の社会生活を進めるうえで、共通に必要な基本的技能やその基礎となる知識を習得させること、として設定されています。

5. 教養科目および共通基礎科目の内部区分

⑴ 教養科目の区分

教養科目は、主題別に「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」及び「環境教育科目」の５つに区分されています。教養科目として学ぶ授業科目は、これらの区分に沿って選択することになります。

⑵ 共通基礎科目の区分

共通基礎科目は、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」および「情報科目」に区分されています。

大学教育センター委員会・構成員名簿

大学教育センター関連会議

委員会等の名称	備考（開催時期、構成員等）
運営委員会	必要に応じ随時開催、委員会名簿参照
全学共通教育企画・実施部門会議（第１部門会議）	必要に応じ随時開催、委員会名簿参照
教育評価・改善部門会議（第２部門会議）	必要に応じ随時開催、委員会名簿参照
専門教育関係連絡調整部門会議（第３部門会議）	必要に応じ随時開催、委員会名簿参照
センター会議	定例：毎週火曜日９時 30 分 センター長、副センター長、センター専任教員（3 名）
ミーティング	定例：毎週　①月曜日 13 時 30 分　②木曜日 13 時 副センター長、センター専任教員（3 名）
第１部門専任＆兼務教員会議	必要に応じ随時開催 副センター長、選任教員（3 名）、第１部門兼務教員（8 名）

大学教育センタースタッフ

センター長	進藤　浩一	理事（学務担当）
副センター長	山崎　達彦	人文社会科学部
センター専任教員（併）	後藤　尚人	人文社会科学部
	中村　一基	教　育　学　部
	石川　明彦	人文社会科学部

【大学教育センター運営委員会】

センター長［委員長］	進藤　浩一	大学教育センター
副センター長［副委員長］	山崎　達彦	大学教育センター
部門長	山崎　達彦	全学共通教育企画・実施部門
部門長	中村　一基	教育評価・改善部門
センター専任教員（併）	後藤　尚人	全学共通教育企画・実施部門
	中村　一基	教育評価・改善部門
	石川　明彦	教育評価・改善部門
副　学　部　長	山崎　達彦	人文社会科学部
	村上　祐	教　育　学　部
	長谷川正之	工　　学　　部
	木村　伸男	農　　学　　部
教務関係委員長	杉浦　直	人文社会科学部
	大野　眞男	教　育　学　部
	渡邊　孝志	工　　学　　部
	橋爪　力	農　　学　　部
全学共通教育企画・実施部門選出教員	小林　睦	
教育評価・改善部門選出教員員	高橋壽太郎	
学　務　課　長	畑中　文穂	

【全学共通教育企画・実施部門会議】

部門長［委員長］	山崎　達彦	全学共通教育企画・実施部門
専任教員（併）［副委員長］	後藤　尚人	全学共通教育企画・実施部門
分科会代表・兼務教員	小林　睦	人間と文化分科会
	横山　英信	人間と社会分科会
	北爪　英一	人間と自然分科会
	山口　春樹	総合科目分科会
	吉川　信幸	環境教育科目分科会
	齋藤　博次	外国語科目分科会
	澤村　省逸	健康・スポーツ科目分科会
	西山　清	情報科目分科会
各学部教務委員選出教員	杉浦　直	人文社会科学部
	大野　眞男	教　育　学　部
	長谷川正之	工　学　部
	橋爪　力	農　学　部
（オブザーバー）	中村　一基	大学教育センター
	石川　明彦	

【教育評価・改善部門会議】

部門長［委員長］	中村　一基	教育評価・改善部門
部門長	山崎　達彦	全学共通教育企画・実施部門
専任教員（併）［副委員長］	石川　明彦	教育評価・改善部門
各学部選出・兼務教員	小林　睦	人文社会科学部
	菊地　良夫	人文社会科学部
	宇佐美公生	教　育　学　部
	上濱　龍也	教　育　学　部
	野村　直之	工　学　部
	西谷　泰昭	工　学　部
	高橋壽太郎	農　学　部
	塚本　知玄	農　学　部
（オブザーバー）	後藤　尚人	大学教育センター

【専門教育関係連絡調整部門会議】

センター長［委員長］	進藤　浩一	大学教育センター
部門長［副委員長］	山崎　達彦	全学共通教育企画・実施部門
専任教員（併）	後藤　尚人	全学共通教育企画・実施部門
各学部教務委員会選出・兼務教員	杉浦　直	人文社会科学部
	大野　眞男	教　育　学　部
	渡邊　孝志	工　学　部
	三輪　弐	農　学　部
（オブザーバー）	中村　一基	大学教育センター
	石川　明彦	

兼務教員の抱負【全学共通教育企画・実施部門】

人間と文化分科会代表
小林睦
（人文社会科学部 助教授）

今年度、企画・実施部門の兼務教員として関わった業務のうち、もっとも重要な仕事は「全学共通教育改革」の方向性について議論することだったと思います。これは、平成１８年度に予定されている改革プランの成案を得るための議論です。大学教育センターの専任スタッフの方が作成した改革案を検討し、新しい全学共通教育のあり方を探るために、話し合いを繰り返してきました。そのなかで、次第に浮かび上がってきたのは、全学共通教育における岩手大学の特色をどのようなものとするのかを決めることの重要性です。岩手大学における教養教育の理念はすでに存在するものの、そうした理念を実際の教育の場で具体化するための明確なイメージは、これまではっきりしたものがありませんでした。キーワードは《イーハトーブ》であろうということにはなったのですが、まだ成案を得るまでには至っていません。さらなる議論を継続することが必要であろうと思われます。

人間と社会分科会代表
横山英信
（人文社会科学部 教授）

学生時代には、その意義がよく飲み込めていなかった教養科目。しかし、専門とは直接結びつかなくとも、知的刺激を受けた講義がかなりありました。いま振り返ってみると、自分なりのものの見方や考え方を形成していく上で教養科目の講義から得たものは少なくなかったように思います。全学共通教育科目（教養科目）の意義は、卒業して社会に出てからその本当の重要性が実感できるものなのかも知れませんが、学生の皆さんが興味を持ち、何かを得てくれるような講義を提供できるよう、微力ながら頑張りたいと思います。

人間と自然分科会代表
北爪英一
（人文社会科学部 教授）

平成１６年度より全学共通教育分科会「人間と自然」の代表をしております。また、大学教育センター発足とともに、全学共通教育企画・実施部門の兼務教員として、教養教育の改革に伴う基本方針策定の業務に参画しております。一口に教養教育といっても幅が広く、その概念をしっかり把握する事さえ私には難しいのですが、大学教育センターの皆様と一緒に勉強しながら、少しでもお役にたてればと思っております。そして岩手大学の学生が本当にこの大学に入って良かった、良い教育を受けられたと、後になって（社会の中核をしめるようになってから）思ってもらえるような教育が、大学教育センターを中心としてこれからできるように大いに期待するとともに、自分自身の授業も改革していきたいと思っております。

総合科目分科会代表
山口春樹
（人文社会科学部 教授）

４月になっていきなり大学教育センターの兼務教員の辞令が送られてきてとまどいましたが、会議に参加していくうちに、岩大の教育をよりよくしていく非常に重要な職務であることが次第にわかってきました。私が担当している総合科目は学生の教養教育のために重要な部門でありながら、担当者が各学部、各部署の寄り合い所帯であることもあって、なかなかまとまりにくいところでもあります。これからは核としての大学教育センターに、高所大所から岩手大学の総合科目にも大胆な改革の大なたを振るっていただくことに期待しています。まだ発足したばかりのセンターですが、学部の利害にとらわれない岩大の真の教育を目指す機関であってほしいと願っています。

兼務教員の抱負【全学共通教育企画・実施部門】

環境教育科目分科会代表
吉川信幸
（農学部 教授）

一昨年の熱波や豪雨等の世界的異常気象は昨年もさらに加速して、大型ハリケーンが米国やハイチを襲い、日本にも激しい台風が連続して上陸した。地震までとは言わないが、地球温暖化が影響しているとみる人は多い。まさに「地球が怒っているのか」（2004/10/22朝日新聞社説）と感じる。50年後、100年後を考えると恐ろしいものがあるが、地球の気候変動を防ぐ手だては、広い意味での環境教育しかないだろう。もう一つ年々増加しているのは、幼児虐待や児童殺害のニュースである。小学生の子供の親としては耐えられない事件が次々と報じられる。教養教育の理念「幅広く深い教養・・・、豊かな人間性を涵養する」からみると、教養教育をおろそかにしてきた付けがきているのだろうか。岩手イーハトーブ大学教育センターの役割はきわめて重要である。

外国語科目分科会代表
斎藤博次
（人文社会科学部 教授）

ある時、ネイティブの非常勤の先生と話をしていたら、「クラスの受講者数が30人では多いので何とかしてもらえないか」と言われた。「そちらは恵まれているんですよ。僕のクラスは50人以上います」と答えたら、即座に“Incredible!”という声が返ってきた。外国語担当教員は、現在この「信じられない」状況の中で授業をしている。授業評価や自己評価が流行っているが、こうした評価を現状のまま教員個人に向けるだけでは十分ではない。教育環境や教育システム全体を改善し、授業効果を高める環境を整備する必要がある。「わが岩手大学では50人以上の学生を教室に押し込んでコミュニケーション能力を高める英語教育をしています」と世間様に言ったら、笑われるだけである。笑われない教育システムの充実のために、大学教育センターは果敢に戦ってもらいたい。

健康・スポーツ科目分科会代表
澤村省逸
（教育学部 助教授）

「学生中心の人間教育」を惹句に、入学から卒業まで一貫した仕組みによって教育する。このことが中期計画に盛り込まれた教育改善の方向性であろうかと思います。その達成には新たなシステムの構築と教員の意識改革が必要不可欠です。そのために大学教育センターが果たすべき役割は際限がなく、大きく重いものとなるでしょう。大衆化した学生に学力を保証し、リーダーシップを身につけさせ、地域や国際社会に貢献させる。この高邁なる夢の実現に向けて「健康・スポーツ科目」は何ができるでしょうか。学生アンケートによると非常に人気が高い科目ではありますが、更なる取り組みが必要のようです。

情報科目分科会代表
西山清
（工学部 教授）

昨年４月に全国の国立大学が一斉に独立行政法人化されるといった大変革が起こりました。岩手大学はどうなるのだろうかと漠然と考えている中、突然、大学教育センターの兼務教員の辞令が送られてきました。その後は、岩手大学の理念や共通教育のあり方などに関する草案つくりの会議に出席する機会が大幅に増しました。私も大学に入学した当時を思い起こし、大学は本来どうあるべきなのだろうかと自問自答している次第です。また、平成18年度から高校で情報科目を必修で学んだ学生が入学することから、情報科目の履修状況に関して急拠夏に情報科目分科会として岩手県と近県の約140校にアンケート調査を実施しました。今後は益々、学生の状況やニーズを考慮し、効率的で実効のある授業が求められて行くことでしょう。情報科目分科会としても、４学部と情報メディアセンタの協力を仰ぎつつ、全学的な立場から、効果的な情報基礎科目を提供して行きたいと考えています。

兼務教員の抱負【教育評価・改善部門】

人文社会科学部選出
小林睦
（人文社会科学部 助教授）

大学教育センターが発足して半年以上がすぎたところです。やはり法人化以前に比べて、さまざまな違いが見られるようになったと感じています。特に、全学共通教育の評価・改善にかんする変化として印象に残った点は二点です。第一にＦＤ合宿のあり方が変わりました。昨年度までの形式を改め、今年度はワークショップ形式が導入されたからです。第二に、全学共通教育科目の授業アンケートのあり方が変わりました。昨年度までに比べて、自分の行なった授業の位置づけが、データとして目に見えるかたちで教員に提示されるようになったからです。こうした変化は、教員各自にとってはさまざまな意味での反省を強いるものですが、大学が自己変革を遂げていくためは、避けられないものだと思われます。兼務教員としては、これらの準備のためにセンターの専任スタッフの方々が、多大なエネルギーを費やしている場面を目の当たりにしてきました。その労を多とするゆえんです。

人文社会科学部選出
菊地良夫
（人文社会科学部 教授）

秋になると紅葉が目を楽しませてくれる。今年も里山の紅葉は綾錦といわれる色彩の競演というところか。紅葉のうちでも最も目立つのはモミジだろう。モミジを紅葉と当てたぐらいだから。一枚の葉、一本の木だけでも際立っている。それにひきかえ、綾錦のすばらしい紅葉の山は、近づいてよく見ると、一枚一枚の葉は風雨にさらされたりして、意外と無惨なものだ。

さて我が大学は「モミジ」派か、「里山」派か？「モミジ」派なら三位一体（新聞によく載るが何やら意味不明）を目指さなければならない。まあ理想郷というところだから。と単純に考えると危険だ。大学は学生、教員、職員からなる。そして新たに舵取り的な「大学教育センター」が生まれた。単純な舵取りは「モミジ」派を目指すことになる。モミジだけの紅葉が勝ちといえるかというと、そうともいかない。一枚一枚の葉では負けるかもしれない、多くの欠点があるかもしれない全山紅葉の迫力ははんぱではない。大学に関わる一人一人がその役割が異なっている。しかしこの異種競合が排除の論理でなく、調和の論理で三位一体となれば、全山紅葉の迫力となろう。

教育学部選出
宇佐美公生
（教育学部 助教授）

授業方法についていろいろと試行錯誤を繰り返し、努力してはいるものの、なかなか思うようにいかず、悩みや課題を抱えている教員の一人として、教育評価・改善部門の兼務教員をお引き受け致しました。部門長の中村先生をはじめ大学教育センターのみなさんのご指導をいただきながら、一般の教員の代表として、多様な評価の可能性と、より良い授業のありかたの探求に努めて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育学部選出
上濱龍也
（教育学部 助教授）

大学教育センター教育評価・改善部門兼務教員として、自分自身への戒めを含め、「評価」と「教育サービス」のふたつの基本的姿勢を忘れないようにしたいと思います。評価については、個々の授業からはじまり大学全体の活動まで、あらゆる場面で行われることは当然ですが、「評価のための○○」というように評価が一人歩きしないように気をつけたいと思います。また、教育サービスについて、評価とも関連しますが、教員主体の教育ではなく、学生主体の教育という視点を常に忘れないよう努力していきたいと考えていますので、皆様方のご指導、ご協力をお願いします。

兼務教員の抱負【教育評価・改善部門】

工学部選出
野村直之
（工学部 助教授）

一昨年９月より、岩手大学工学部福祉システム工学科にて初めて教壇に立つことになった新米教員です。授業を教える側としての予習・復習が如何に大変で重要なものかを日々痛感しています。そんな新顔が、「シラバスにもとめられるもの」や「成績評価」などの難しい議論をしてよいものかと自問してしまいますが、学生に質の高い授業を提供し、かつ学生の理解度を高めたいという思いは他の先生方と一致しているかと思います。大学教育センターの兼務委員という重責を果たせるよう努力していきますので皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

工学部選出
西谷泰昭
（工学部 教授）

これまでの大学は、教育の品質を教員個人の資質・努力によって保とうとしてきました。その品質は学外からはもちろん、学生や教員にとっても判断しにくいものでした。教育の品質を個人ではなく組織として保証していこうというのが大学教育センター設立の目的だと思っています。品質保証のための評価基準・手法・改善のための仕組み作り、そしてそれらの公開などが、センターの担う中心的な役割なのでしょう。大学の掲げる教育目標は抽象的なものですが、これを実際の授業の品質基準に具体化していく作業が、センターとして取り組む第一歩だと思っています。

農学部選出
高橋壽太郎
（農学部 教授）

平成16年の大学の独立行政法人化により急速に全国的に大学の改革が進行していて、中期目標として多くの課題がありますが、その中でも大学教育改革が急務であり、そのための岩手大学における大学教育センターの設置がとくに大きな意味を持っていると思います。平成18年度のカリキュラムの改革を目指して全学的教育体制の一元化による全学的教育体制の見直しと確立、特色ある教育、現代的な課題（死生観、ジェンダー、世界観、美意識等）、無駄のない教育形態、教育システムの問題点の見直し、履修申告や成績の教育効果の適正な評価、地域への学術的貢献、教養科目と基礎と専門との一貫性と整合性、学務スペシャリストの育成など、改革事項は山積していますが、大学教育センターには、さらにいっそう教育現場の意見を大切にして、常に学生の側に立った教育体制の確立を目指すことを期待しています。

農学部選出
塚本知玄
（農学部 助教授）

教育評価・改善部門の一員として活動しております。国立大学が法人化されたことをきっかけに、岩手大学全体が、これまでのやり方を変え、より良い大学にしていこうという機運が高まってきているように感じます。ただ、これまでの流れを変えることはできても、それがバラバラな方向に向かってしまったら、岩手大学として大きな力は生まれません。新たな流れを大きな一つのまとまったものにできたらいいのになあ・・・と考えています。難しいでしょうが、やり甲斐のある仕事だと思っています。

兼務教員の抱負【専門教育関係連絡調整部門】

人文社会科学部教務委員会選出
杉浦直
（人文社会科学部 教授）

大学教育センターの設置という方針が決定されたときは、正直言ってイメージが湧きませんでした。しかし、今年度からセンターは本格的に稼動を始め、私ははからずしも人社の教務委員長を仰せつかったため、センターの種々の会議に出席せざるを得ないことになりました。センターが何をすべきか、何を為し得るのか、まだよく分からないことも多いのですが、ともかくその最大の任務はこの岩手大学の教育サービスの質を高め、よい学生を育てる体制をさらに整えていくことには違いないでしょう。言うまでもなく教育サービスを提供する主役は個々の教員であり、またサービスの受け手は個々の学生でありますので、センターはその意見を幅広く汲み上げることに努力し、我々がいきいきと教育活動を実践できるようサポート役に徹してほしいと思っております。教育を取り巻く環境は、物的・財政的支援を含めて悪化しておりますので、センターは財務的要求のみに屈することなく、教員の地道な教育をしっかり支援していくことに全力を挙げてほしいと願うのみです。

教育学部教務委員会選出
大野眞男
（教育学部 教授）

さっさと教養は片づけてしまって、なるべく早く学部の専門科目に移ってきなさい。かなり昔の先生方は、こんな指導を新入生にしたこともあったかもしれません。しかし、特定の専門分野しかわからない視野の狭い人材を育てても、21世紀の世界ではもはや通用しません。大学教育の基礎・基本は、さまざまな専門分野を学ぶ土台となる「主体的に学ぶ力」を、学生自らが身に付ける支援を行うことにあると思います。大学教育センターの使命は、魅力的なリベラル・アーツの世界を提供するだけでなく、複雑な現代社会を逞しく生き抜く知的体力を鍛えるシステムを、学部４年間を通じて提供することだと考え、学部を越えて兼務教員をお引き受けしました。

工学部教務委員会選出
渡辺孝志
（工学部 教授）

より良い教育体制を構築するためには教育評価が重要となるが、教員の業績評価問題と絡んで、具体的な教育評価方法で合意を得るのはなかなか難しいようである。しかし、教育評価には教育サービスの受益者である学生側の満足度を反映させることが不可欠であると広く認識されてきている。学生側の満足度の視点は意外に簡単明瞭で、大半は授業が役に立ったか否かであろう。個々の授業の最後に「学生による授業評価」を行うことは、最早議論の段階ではなく、制度としていつ実現するかの問題であると考える。大学教育センターにはその早期実現を強く期待したい。

農学部教務委員会選出
三輪弐
（農学部 教授）

岩手大学の専門教育について、一番残念なことは、一つのキャンパスに文理両方の学部がある総合大学でありながら、学生たちが、自由に他学部の講義をとる体制ができていないことです。私大では、籍を置く学部をほぼ３年で終了して、４年目には他学部の授業科目をとって２学部の卒業資格を得る制度まで始まっていると聞きます。本学でも、シラバスを充実し、講義内容概要をホームページに公開して、他学部講義の履修・聴講を奨励する体制づくりが必要ではないでしょうか。限られたスタッフ、限られた予算で魅力ある大学を作り上げて行くために、学部を越えて全教職員が知恵を出し合い、協力・連携を進めることが大事だと思います。

大学教育センター 活動日誌（主要行事のみ掲載）

2004		
2月	29日	山口大学、大学教育センター視察（中村、後藤、3月2日まで）
3月	3日	NHK 大学セミナー打合せ（後藤 他）
	16日	NHK 大学セミナー打合せ（後藤 他）
	26日	大学教育センター設立準備会
4月	1日	大学教育センター設立
	22日	第1回運営委員会 【副センター長、部門長、兼務教員の推薦等】
	27日	大学教育センター上掲式
5月	11日	第1回第1＆2＆3部門合同会議
	19日	第41回国立大学教養教育実施組織会議出席（岡山大学：石川 他21日まで）
6月	11日	大学教育学会第26回大会【大学教育の接続と連携】出席（北海道大学：後藤14日まで）
	17日	第2回運営委員会【専任教員公募、転学科・転課程等】
		第2回第3部門会議【非常勤手当等】
	21日	第2回第2部門会議【FD 合宿研修、授業改善アンケートの実施等】
	28日	第2回第1部門会議【全学共通教育改革の必要性、改革のポイント】
		NHK 大学セミナー打合せ（NHK 盛岡放送局、後藤 他）
7月	7日	現代教育ニーズ取組支援プログラム調整会議（進藤、後藤）
		授業改善アンケート配布28日まで
	9日	現代教育ニーズ取組支援プログラム説明会出席（文科省：後藤 他）
	16日	教員選考委員会（山崎 他）
	23日	第3回運営委員会【現代教育ニーズ申請、専任教員公募、転学科・転課程等】
	30日	第3回第1部門会議
	31日	センター通信 *erudio 1* 発刊
8月	2日	山形大学 FD 合宿研修会参加（中村3日まで）
	11日	第1部門専任・兼務教員会議
	24日	第1部門専任・兼務教員会議
	31日	東北地区IDEセミナー出席【特色ある大学教育プログラム】（仙台：進藤、中村）
9月	1日	岩手大学 FD 合宿研修会主催【シラバスを基軸とした授業改善・成績評価の基盤づくり】（国立青年の家：2日まで）
	4日	大学教員セミナー【e ラーニングと大学教育】（八王子：後藤5日まで）
	10日	NHK 大学セミナー打合せ（立花隆事務所：後藤 他）
	14日	NHK 盛岡放送局へ報告（後藤 他）
	15日	第54回東北・北海道地区大学一般教育研究会出席（小樽商科大学：中村、後藤、石川17日まで）
	21日	第1部門専任・兼務教員会議
	24日	第3回第2部門会議
	27日	第4回第1部門会議
	30日	長崎大学、大学教育機能開発センター視察（山崎3日まで）
10月	5日	岩手大学における放送大学活用研究プロジェクト（中村、後藤）
	14日	第4回運営委員会【特色 GP、現代 GP、非常勤手当て、転学科・転課程等】
	19日	放送大学活用研究プロジェクト（後藤）
		学長とセンタースタッフとの懇談会
	22日	第1部門専任・兼務教員会議
		授業改善アンケート集計結果を各教員に送付
11月	4日	第7回北海道大学 FD 合宿研修会参加（石川7日まで）
	6日	NHK大学セミナー（岩手大学7日まで）
	11日	教員選考委員会（山崎 他）
	12日	5大学フォーラム（進藤、中村、石川）
	14日	特色 GP フォーラム（東京：後藤）
	22日	第4回第2部門会議
	24日	放送大学活用研究プロジェクト（後藤）
	25日	教員選考委員会（山崎 他）
12月	4日	NHK 大学セミナー(岩手大学5日まで)
	7日	CSC による e-learning 学習（中村、石川、後藤）
	8日	教員選考委員会（山崎 他）
	9日	第5回第1部門会議
	10日	前期優秀授業表彰式
	15日	教員選考委員会（山崎 他）
	27日	第1部門専任・兼務教員会議
2005		
1月	7日	第1部門専任・兼務教員会議
	12日	第5回運営委員会【採用人事、非常勤承認】
	21日	授業改善アンケート配布2月10日まで
	24日	第6回第1部門会議

全学共通教育企画・実施部門（第１部門）

全学共通教育の更なる発展へ向けて
（平成18年度に向けた取り組み）

本学では、どの学部の学生にも、岩手大学の学生として共通に必要な学識と教養を養うために、全学共通教育を設けています。

この全学共通教育の実施に当たっては、これまでも担当教員の不断の努力により、堅実なる成果が挙げられてきたことは言うまでありません。しかしながら、現行の教育体制・プログラムには少なからず問題点が見受けられるのも事実です。例えば、大学評価・学位授与機構による『「教養教育」評価報告書』に基づく課題として、教養教育の理念と目標への認知不足や、科目別授業担当登録教員による組織の編成、教養教育の高年次履修の強化などがあげられています。さらに、来るべき全入時代への対応等を視野に入れれば、キャリアアップ関連科目の補充なども必要になります。

それらの問題点の解消と、中期計画に定められた目標を達成するための措置を実行するため、大学教育センターでは、平成18年度から新たな体制での全学共通教育の運営をめざし、全学共通教育企画・実施部門を中心に（センタースタッフ＆兼務教員で）対応策を検討してきました。

このたび原案がまとまりましたので、平成17年１月24日の部門会議にて「全学共通教育の更なる発展へ向けて：改革骨子案」として提案し、各学部においてご検討いただくことになっています。

全学共通教育をより充実させるため、教員各位のご理解とご協力をお願いいたします。

改革骨子案の重点ポイント

＊岩手大学全学共通教育の特色
→ イーハトーブ教育（来るべき未来の住人となる健全な人間性の育成）の明示化

＊全学共通教育実施体制の実質化
→ 全学担当体制から全教員担当体制への移行

＊自己啓発プログラムの新設
→ 転換教育からキャリアアップ教育までを一貫教育の観点から連続的に構築

＊外国語教育の強化
→ 国際化・グローバル化時代に対応した語学教育

＊教養科目の補強と拡充
→ 教養科目を補強し、現代的観点から拡充

全教員担当体制への移行に伴い、現行の分科会を再編し、全教員が登録する新たな分科会を構築します。そのための予備調査を２月中に実施しますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

ＮＨＫ大学セミナー 報告

岩手大学とＮＨＫ盛岡放送局は、平成16（2004）年11月＆12月に、ＮＨＫ大学セミナー【立花隆に学ぶ「人間の能力とその可能性」～スペシャリストとゼネラリストをめぐって～】（全４回）を開催しました。

スペシャリストとしては、卓越した取材力と論理構築能力を発揮するジャーナリスト。また一方で、広範な知のフロンティアを渡り歩くゼネラリスト。この両者を兼ね備えた立花隆氏を講師に迎え、立花氏のレクチャーを中心に、岩手大学の教員やＮＨＫのディレクターとのパネルトーク、平山健一岩手大学長との対談などを織り交ぜ、人間の持つ能力と、社会を担う人たちのあり得るべき姿について４回に渡り考える機会を持ちました。

４回のセミナーには、学生、教員、一般参加者と、延べ1200名ほどの受講者が参加し、盛会のうちに無事終了することが出来ました。

【パネルトーク：立花、五味、後藤：2004/12/06】

セミナーの企画は、人文社会科学部の五味壮平先生の全面的協力を得て、大学教育センターの後藤が担当し、準備＆実施に際しては岩手大学学務課の力強いバックアップに支えられました。

なお、セミナーの収録ビデオを、
http://uec.iwate-u.ac.jp/nhk/
からストリーミング配信しています。ぜひ一度ご覧下さい。

【資料：運営委員会提出済(2005/01/12)】

放送大学活用研究プロジェクト：2005/01/10

岩手大学＆放送大学岩手学習センター：放送大学活用研究プロジェクト

岩手大学における教育環境の問題点を、放送大学岩手学習センターを活用することでどの程度解消できるのか、
また、そのためには何が課題となるのかを検証するため、平成 17 年度に以下の科目をそれぞれの形態で開講する。

【平成 17 年度実施分】

科目分類 科目名 (岩手大学)	科目分類 科目名 (放送大学)	メディア	人 数	学 期	利用形態	受講場所 時間	活用目的	活 用 理 由 ＆ 方 法	課　題
共通基礎科目 「初級韓国語」	共通科目 「韓国語Ⅰ」 「韓国語Ⅱ」	テレビ	４０ ×２	前期	科目履修生	岩手大学 LL 教室 同一時間	担当者不足の解消	＊担当者不足により１クラスしか開講されていないため、TA によるクラスを別途開講。	※ 団体の受講料 ※ 受け入れ態勢 ※ TA の確保
教養科目 「心の科学」	共通科目 「心理学初歩」	テレビ	(434)	前期	コンテンツの利用	岩手大学 大教室２室 同一時間	巨大クラスの解消	＊履修者超過クラスで全員が教室に入りきらず教育環境が良くないため、２室の教室でコンテンツを流し、テレビ会議システムで質問等を受けつける。	※ コンテンツ使用料 ※ 双方向テレビ会議システム ※ TA の確保
教養科目 「—」 (自由選択)	共通科目 「現代社会と著作権」	テレビ	５０	前期	科目履修生	放送大学 随時	カリキュラムの充実	＊知的財産関係科目充実のために、放送大学の科目を指定する。	※ 団体の受講料 ※ 受け入れ態勢
専門科目 「生活空間論」 「建築文化論」	専門科目 「住計画論」	テレビ	４０	後期	科目履修生	放送大学 随時	担当者不足の解消	＊教育学部の生涯教育課程と芸術文化課程で非常勤講師が担当している科目を、放送大学の科目にかえる。	※ 団体の受講料 ※ 受け入れ態勢
専門科目 「分子生物学」	専門科目 「分子生物学」	テレビ	(50)	前期	コンテンツの利用	岩手大学 農学部	教育効果の検証	＊農学部農業生命科学科の学科共通科目（他学科では講座外科目）に放送大学の教材を加味し、教育効果を検証する。	※ コンテンツ使用料
専門科目 「細胞生物学」	専門科目 「細胞生物学」	テレビ	５０	後期	科目履修生	放送大学 随時	教育効果の検証	＊農学部農業生命科学科の学科共通科目（他学科では講座外科目）を２分割（岩手大学クラス・放送大学クラス）し、放送大学クラスの授業効果を検証する。	※ 団体の受講料 ※ 受け入れ態勢
専門科目 「アグリビジネス論」	専門科目 「アグリビジネス」	ラジオ	２５～ ３０	後期	科目履修生	放送大学 随時	担当者不足の解消	＊農学部農業生命科学科の学科共通科目（他学科では講座外科目）で担当者が不足しているため、放送大学の科目を指定する。	※ 団体の受講料 ※ 受け入れ態勢

全学共通教育企画・実施部門（第１部門）の活動予定

＊第１部門会議に提案した「全学共通教育の更なる発展へ向けて：改革骨子案」を全学で議論していただき、大学教育センター運営委員会に上げていかねばなりません。
＊平成18年度からの実施なので、春ごろには全学レベルで改革骨子案を了承していただければ... と考えています。
＊なお、改革骨子案に盛り込めなかった資料等を整理して、近々、大学教育センターの web サイトからダウンロードできるようにいたします。

＊上記議論と平行して、全教員担当体制へのスムーズな移行を目指し、全教員が登録し得る新たな分科会の構築が急務です。
＊まず２月中旬頃、全教員宛に、どのような分野なら全学共通教育に参画できるのかを尋ねるアンケートをお送りします。
＊その結果を元に、大学教育センターで設置可能な新分科会候補を抽出し、最終的には教員全員がいずれかの分科会に登録できるように、あらためて皆さまのご意向をお尋ねします。ご協力のほど、よろしくお願いします。

＊年度内には、大学教育センターの web サイトを仕上げねばなりません。難関はトップページです。どのようなデザイン＆レイアウトにするか、最後はひらめきの世界ですね...

＊ひらめくまで待ってられないのが、大学教育センターのロゴや封筒等の作成です。これも年度内の宿題。

＊あれこれしているうちに、平成16年度の《大学教育センター報告書》（『通信』に収録できなかった資料等をどっさり盛り込む予定）の刊行時期になりそうです。

＊３～４月には「特色ＧＰ」の申請があります。今回は人文社会科学部が行なってきた総合化教育の成果を世に問うことになります。

＊新学期には放送大学岩手学習センターとの共同プロジェクト（放送大学活用研究プロジェクト）が始まります。

＊４月以降は、新たな専任スタッフと「拡張 web シラバス」の仕様策定が待っています。

大学教育センターの web サイトは、

http://uec.iwate-u.ac.jp/

で本格稼働する予定です。

現在、ＮＨＫ大学セミナー関連のページ等が部分的に開通していますが、大学教育センターのトップページが《工事中》なので、本格稼働までには今しばらくお待ち下さい。　m(_ _)m

教育評価・改善部門（第２部門）

ＦＤ合宿研修の紹介

大学教育センターでは、９月１日（水）、２日（木）の二日間、国立岩手山青年の家においてＦＤ合宿研修会を開催いたしました。今回は、第２部門の今年度の課題でもある「シラバスを基軸とした授業改善・成績評価の基盤づくり」に沿って、参加者がシラバスを作成する実践的なワークショップ方式の研修会を行いました。

参加者は平山学長ほか、講師の小田隆治山形大学高等教育研究企画センター教授、４学部から教員各８名、兼務教員、センター教員、学務部職員併せて50名でした。研修では５名構成の学部混成の班を作り、班別のテーマに基づいた授業を考えて、そのシラバスを作成していただきました。なお、各班には兼務教員にチーフとして入っていただきました。

センターで、「教育目標」（岩手大学中期目標）等に則した以下の４種類の授業、（１）岩手大学の個性を輝かせる授業、（２）「地域社会に開かれた大学」のあり方について考える授業、（３）情報化社会における教養と人間性を考える授業、（４）21世紀の人類的諸課題に対応する授業を用意し、班ごとにその中の一つについて作業をしていただきました。

参加者には、「科目設計１：授業名と目標の設定」、「科目設計２：授業内容の作成」、「科目設計３：シラバスの完成」という３つのプログラムに分けて作業して頂きました。参加者に対しては、シラバス作成の留意点として、授業は教養科目として設計すること、岩手大学の教育目標を意識すること、学生による学習を中心に考えること、また、授業目標の記述に関しては、授業の目的と到達目標を区別して考えること、成績評価の方法と基準が到達目標の観点と照応することなどをあげさせていただきました。そして、各プログラム作業の終わりに各班から報告発表をお願いしましたので、とても忙しく、賑やかな研修でした。最後に全体会議として講師による講評、質疑応答等を行い無事終了いたしました。

大学教育センターとしては、実践的なワークショップ方式の研修会は初めての試みで、勉強不足に加えて準備不足もあり参加者のみなさんにとまどいを与えてしまった点も多々あったかと思います。事前に参加者のみなさんとシラバスがどうあるべきかなど、もっと討議すべきだったと反省しております。センターとしては、合宿研修に対するアンケート結果を参考にして、兼務教員のみなさんの意見を聞きながら、次年度の研修会の在りかたを考えていきたいと思っています。

高大連携活動報告

高校生のための体験入学

高校生に「高度な教育・研究に触れる機会を提供する」等の趣旨の基、本年度後期から体験入学（10月から11月まで）を実施しました。

受け入れ科目は３分科会の中の７科目で、体験入学者は盛岡市近郊の５つの高等学校から合計30名。大学生と一緒に講義を受け、11月22日、24日、全員が無事受講証明書を受け取りました。

ウインターセッション

昨年度に引き続き、高校生に研究の面白さや研究者の姿に触れる機会を提供する等の目的で、本年も12月25、26、27日の３日間、岩手県立大学、富士大学、盛岡大学と平行してウインターセッションが行われました。今年度の本学のプログラムは教育学部に担当して頂き、「地域を学ぶ、地域に学ぶ」のテーマで実施されました。参加者は県内の高校生55名でした。

全学共通教育授業改善アンケート調査集計報告

全学共通教育授業改善アンケート調査は、教員並びに学生に協力頂き７月に実施いたしました。大学教育センターではこの回答を集計し、10月中旬に授業担当教員別に個々に送付報告致しました。下記の表、グラフは実際に某教員に送付したものの抜粋です。この担当者の例では、設問Ｅで授業を構成する５つの基本軸の中の、第４軸の「学生を授業に参加させる工夫」ではこの分科会の平均に近い学生評価ですが、第２軸「授業実施上の基本」ではかなり低い学生評価であることが読み取られます。更に設問Ｆの総合的評価でも芳しくない状況のようです。

設問 E

表 E-1

番号	選択肢	評点
1	そうである	５点
2	まあそうである	４点
3	あまりそうでない	２点
4	全くそうでない	１点
(5)	該当なし	３点
無　回　答		０点

表 E-2

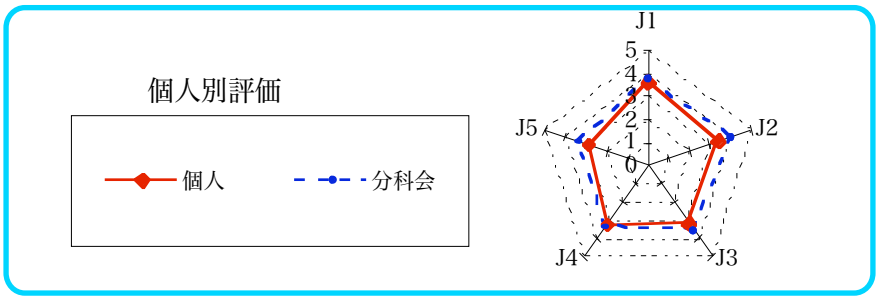
軸	分 類 項 目	授業を構成する基本軸
J1	a. b. c. d. e.	科目担当者としての認識
J2	f. g. h. i. j.	授業実施上の基本
J3	k. l. m. n. o.	授業を効果的に行なう工夫
J4	p. q. r. s. t.	学生を授業に参加させる工夫
J5	u. v. w. x. y. z.	学生が受けた教育効果

上記に基づいて個人別評価を計算した結果が表 E-3 です。（満点は５）

軸総点：各選択肢毎の人数×評点を総和したもの
個　人：軸総点÷（５項目×回答者数）
分科会：対応する軸の分科会全員の平均

表 E-3

軸	1	2	3	4	(5)	軸総点	個人	分科会	差
J1	56	107	55	11	0	829	3.60	3.78	-0.18
J2	61	81	61	25	1	779	3.39	4.01	-0.62
J3	30	77	58	22	43	725	3.15	3.52	-0.37
J4	39	65	54	15	55	743	3.23	3.32	-0.09
J5	23	89	76	41	0	664	2.89	3.36	-0.47
個人の平均（Ｅ評価）、分科会の平均、その差　→							3.25	3.60	-0.35



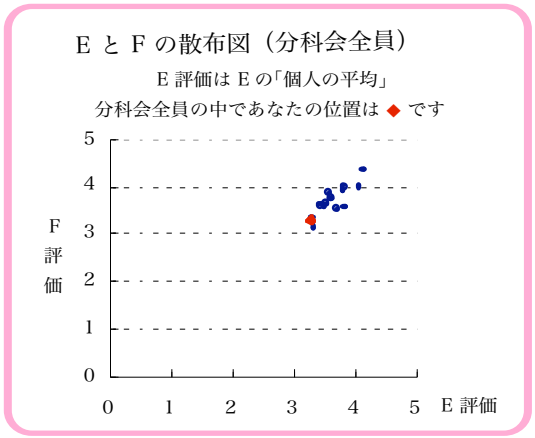
設問 F

設問Ｅと同様に下表のように評点を定め計算しました。

番号	選択肢	評点	人数
1.	満足	５点	3
2.	まあ満足	４点	28
3.	やや不満	２点	10
4.	全く不満	１点	5
総　　和			152

（Ｆの評価は総和÷回答者数、満点は５）

あなたの授業のＦ評価は　3.30
分科会のＦ評価平均は　3.74
差は　-0.44



優秀授業表彰

各授業毎に集計された授業改善アンケートの結果を受け、大学教育センター教育評価・改善部門会議において「優秀授業」の選出作業を行いました。選出作業も選出基準の策定も初めての試みであり、戸惑いもありましたが、この選出作業の主眼は、授業評価ではなく授業改善を推進する目的にあることを確認しながら作業を進めていきました。その結果、下記の授業科目を「優秀授業」として選出し、12月10日学生センター棟３階で表彰式を行いました。

選出基準並びに表彰された優秀科目は次の通りです。

平成16年度前期優秀授業科目選出基準

１．分科会ごとに、アンケート実施授業科目を対象に優秀授業科目を選出することとし、選出授業科目の数は対象科目数の２割を目処とする。

２．授業構成基本軸評価（Ｅ評価）、総合的満足度評価（Ｆ評価）別に上位２割を候補とし、双方に該当する授業科目を選出候補とする。

３．この選出候補の科目の中で、アンケート回答者数が分科会の授業科目の平均回答者数の３割未満の科目がある場合には、その科目を選出候補から外す。ただし、その科目が候補科目であったことを記録に残す。

４．回答者数が３割未満で選出候補から外した科目がある場合には、外した科目の数に相当する科目数を順に繰り上げて、「２」に戻る。

５．上記の手続きを経た選出候補の授業科目について、さらに自由記述の内容等で精査し確定する。

優秀授業科目一覧

［分科会］（科目数）

授 業 科 目	*担 当 者*	*コード番号*
［人間と文化分科会］（21科目）		
哲学の世界	開　龍美	0003
倫理学の世界	小林　睦	0004
欧米の文学	長野俊一	0015
［人間と社会分科会］（23科目）		
憲法	内田　浩	0027
現代社会と経済	田口典男	0033
地域と生活	遠藤匡俊	0044
［人間と自然分科会］（15科目）		
自然と数理	飯田雅人	0054
物質の世界	吉澤正人	0065
［外国語科目分科会］（英語：37科目）		
英語Ｂ	アーダー・エルビス	0107
英語Ｂ	ブレア・ベンジャミン	0109
英語Ｂ	アーダー・エルビス	0123
英語Ｂ	イシカワ・ペギー	0125
英語Ｂ	ブレア・ベンジャミン	0126
英語Ｂ	橋本　学	0127
［外国語科目分科会］（英語以外：36科目）		
ドイツ語	能登惠一	0203
フランス語	加藤　隆	0248
フランス語	加藤祐子	0253
中国語	中安美恵子	0275
韓国語	楊　政亜	0295
［情報科目分科会］（11科目）		
情報基礎	平山貴司	0408
情報基礎	中西貴裕	0415
［健康・スポーツ科目分科会］（39種目）		
ダンス	関根尚子	0301-4
バレーボール	小笠原義文	0303-3
バトミントン	武田正司	0303-4
体力トレーニング	佐々木優次	0305-4
ゴルフ	石井旨岡	0305-7
バレーボール	伊藤　斎	0306-5
バトミントン	大久保香織	0306-6

教育評価・改善部門（第２部門）の活動予定

＊平成16年度後期全学共通教育授業改善アンケート調査を、１月28日（金）から２月10日（木）までの間で実施します。このアンケート調査の集計結果及び評価報告は、前期同様、全学共通教育担当教員のみなさんに報告させていただきます。また、その調査報告をもとに「優秀授業」の選出を行っていきたいと思っています。

＊平成16年度 FD 研修会［第１回授業改善ワンポイント学習会］＜板書を巡って＞を、２月23日（水）G32教室で13時30分から16時まで行いたいと思います。全学共通教育を担当されている教員はもちろん、その他の教員、さらに学生を含めての自由参加形式で、実践的な授業の工夫を伝授し合う場にしたいと思っています。

＊高校生のための体験入学については平成17年度から前期、後期ともに実施することになりました。提供授業科目は下記の通りです。

＊平成16年度前期全学共通教育の「優秀授業」の公開授業を、平成17年５月９日（月）から13日（金）までの一週間「優秀授業公開週間」と銘打って、各分科会の優秀授業の中からお願いすることにしております。

＊全学共通教育の授業を、御父兄・高校の先生・高校生等に観ていただく「授業参観」の期間を６月に予定しております。

＊地域連携推進センターとの共催で「地域連携実践セミナー」を、平成16年12月、17年１月とすでに２回実施しましたが、今後も５月、７月、９月、11月、平成18年１月と５回予定しております。

＊平成17年度も引き続き、高校生に研究の面白さや研究者の姿に触れる機会を提供する等の目的で、ウインターセッションが計画されています。今回のプログラムは工学部と農学部に協力して担当していただきます。

【提供授業科目】

	前　　期	後　　期
月　曜 ９・10校時	地域と生活	倫理学の世界
	自然と数理	自然と法則
	岩手大学ミュージアム学	岩手大学論
水　曜 ９・10校時	欧米の文学	欧米の文学
	芸術の世界	社会的人間論
	日本の歴史と文化	日本の歴史と文化
	自然と数理	自然と数理
		地域と社会

編集後記

＊「すると、雲もなく～」は、宮沢賢治の「水仙月の四日」（『注文の多い料理店』収録）の一節です。新雪に覆われた世界はまさにイーハトーブ。冬の宝物。

＊*erudio* はラテン語の「教える」という動詞です。形容詞の *eruditus* は「博学な」「造詣の深い」「教養のある」という意味になります。

＊センター通信（*erudio*）第２号をお届けします。季刊で年に４回発行の予定が、熟成モードになってしまいました。時間が開くと作業工程を忘れてしまい、ソフトの使い方を思い出すのにひと苦労。印刷以外は完全自力制作。made in 大教センターです。［工場長］

erudio 2　2005年２月14日発行

企画・編集・構成・デザイン

© 岩手大学大学教育センター

〒020-8550　盛岡市上田３丁目18-34
（学生センター棟内）

全学共通教育企画・実施部門
TEL：019-621-6925
教育評価・改善部門
TEL：019-621-6926
部門共通 FAX：019-621-6928